

町内で行っている活動の一部を紹介します

町立図書館で、認知症に関する特集展示を行います

町では、9月21日「世界アルツハイマーデー」と9月「世界アルツハイマー月間」に合わせ、町立図書館にて認知症に関する特集展示を行います。この機会に認知症の理解を深め、正しい知識を学び、介護家族と本人への支援を考え、認知症になっても安心して暮らせる社会づくりにご参加ください。

展示期間 9月1日(金)～30日(土) **場所** 町立図書館 特集展示コーナー

内容 世界アルツハイマー月間や認知症に関する書籍・パンフレットの展示、杉戸町の認知症に関する取組み、認知症サポーター養成講座、地域包括支援センターの案内など

問 高齢介護課 地域包括支援センター担当 内線302



令和4年度の展示の様子

すぎびよんカフェ (認知症カフェ)

カフェのように誰でも自由に立ち寄れる「地域の居場所」です。気分転換や息抜きにぜひお越しください。



日時 9月15日(金)

①10時～10時50分 ②11時～11時50分

場所 ウエルシア杉戸倉庫店 ウエルカフェ

参加費 無料

内容 参加者同士の交流、認知症や健康・介護に関する個別相談。認知症疾患医療センター（久喜すずのき病院）相談員による相談。

定員 各6名（個別相談をご希望の方は事前にご連絡ください。）

問 高齢介護課 地域包括支援センター担当 内線302

認知症サポーター養成講座 出張講座

内容 認知症に関する正しい知識、認知症の方とその家族への接し方など



※初めて受講する方には、認知症サポーターの印として認知症サポーター証を配付します。

対象 町内在住・在勤・在学の団体・グループ

場所 町内（用意していただいた会場で開催）

費用 無料（会場使用料が必要な場合は、受講者負担）

申込 希望日の1か月前までに人数・場所を高齢介護課へお問合せください。（第3希望までの日程をご用意ください。）

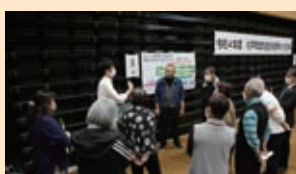
問 高齢介護課 高齢者福祉担当 内線318

認知症徘徊声かけ訓練

地域で見守りを行う仕組みづくりを進めるため、「認知症徘徊声かけ訓練」を行っています。認知症に対する理解を深め、訓練を通じて声かけの仕方を学びます。

※詳細は広報すぎと10月号をご覧ください。

問 高齢介護課 地域包括支援センター担当 内線302



24時間365日 「すぎと高齢者よろず相談電話」

夜中に眠れない、父の介護が大変、グループホームってどんなところ？、両親の帰りが遅くて学生の私がおばあちゃんの面倒を見ていて毎日つらいなど高齢者に関するよろず相談を看護師などの専門職が24時間365日体制でお受けします。皆さんいつでもお気軽にお電話ください。

対象 町内在住の高齢者およびそのケアラー・ヤングケアラー（ご家族やお友達）

電話番号 **0120(345) 604**

高齢者見守りシール

認知症等により、行方不明になる可能性のある高齢者の衣服等にシールを貼り付けておくと、発見者がシールのQRコードをスマートフォンで読み取ることができ、あらかじめ登録した方（家族・介護者など）に伝言機能を通じて、発見者情報メールが届くシステムです。

対象 認知症等により行方不明が心配な方

費用 無料

配布枚数 耐洗シール30枚・蓄光シール10枚

問 高齢介護課 地域包括支援センター担当 内線302



いま、知っておきたい 認知症のこと

9月は、世界アルツハイマー月間です。

高齢化の進展とともに、認知症の人も増加しています。認知症は、年齢を重ねるほど発症する可能性が高まり、令和7年には65歳以上の高齢者の約5人に1人に達することが見込まれています。

認知症を他人事ではない問題として捉え、皆さんも認知症について考えてみませんか？

●認知症は脳の病気

「認知症」は、さまざまな原因で脳の細胞が死んだり、働きが悪くなったりして、機能障害が起こり、およそ6か月以上継続して日常生活に支障が出る状態が認知症です。

認知症の症状には、多くの人に共通してみられる「中核症状」と「周辺症状」があります。中核症状とは、記憶や判断力、時間や場所の認識などの認知機能が損なわれる状態で、誰にでも起こるものです。

中核症状の具体例

- ・記憶障害（さっきの事を覚えていない。）
- ・見当識障害（日時・場所が分からない。）
- ・周辺症状とは、中核症状とともに、本人の性格や環境など、さまざまな要因が絡み合っているもので、出現頻度や症状は人によって異なります。

症状は、徘徊・妄想・幻覚・うつなどがあります。

●早期治療が大切

認知症は、その人の人格に影響する病気です。

そのため、本人が症状を認めない場合や話を取り繕って、発覚が遅れてしまうことがあります。

認知症は、早期発見・早期治療により、進行を遅らせたり、症状を緩和できることがあるため、家族や身近な人が「何か変だな」と気づいてあげることが大切です。

予防・治療、家族や周囲の支援の仕方次第で、症状を緩和し日常生活を送りやすくすることが可能です。



●認知症と物忘れ

加齢による「物忘れ」と「認知症」は違います。歳を重ねると物忘れが多くなることもありますが、認知症による物忘れは、日常生活に支障をきたすことがあります。

	加齢による物忘れ	認知症による物忘れ
体験したこと	一部を忘れる（例：朝ごはんのメニューを忘れる）	すべてを忘れる（例：朝ごはんを食べたこと自体を忘れる）
学習能力	維持されている	新しいことを覚えられない
物忘れの自覚	ある	なくなる
探し物に対して	（自分で）努力して見つけられる	いつも探し物をしている誰かが盗んだなど、他人のせいにするところがある
日常生活への支障	ない	ある
症状の進行	きわめて徐々にしか進行しない	進行する

●物忘れが多いと感じたら

認知症とまではいなくても、加齢による物忘れが多いと感じたら、軽度認知障害（MCI）の可能性もあります。

MCIは、認知症になる前の段階のことです。日常生活には支障がない状態で、認知症ではありません。

この状態を放置すると認知機能の低下が進んでいきます。早めにかかりつけ医などに相談してみましょう。